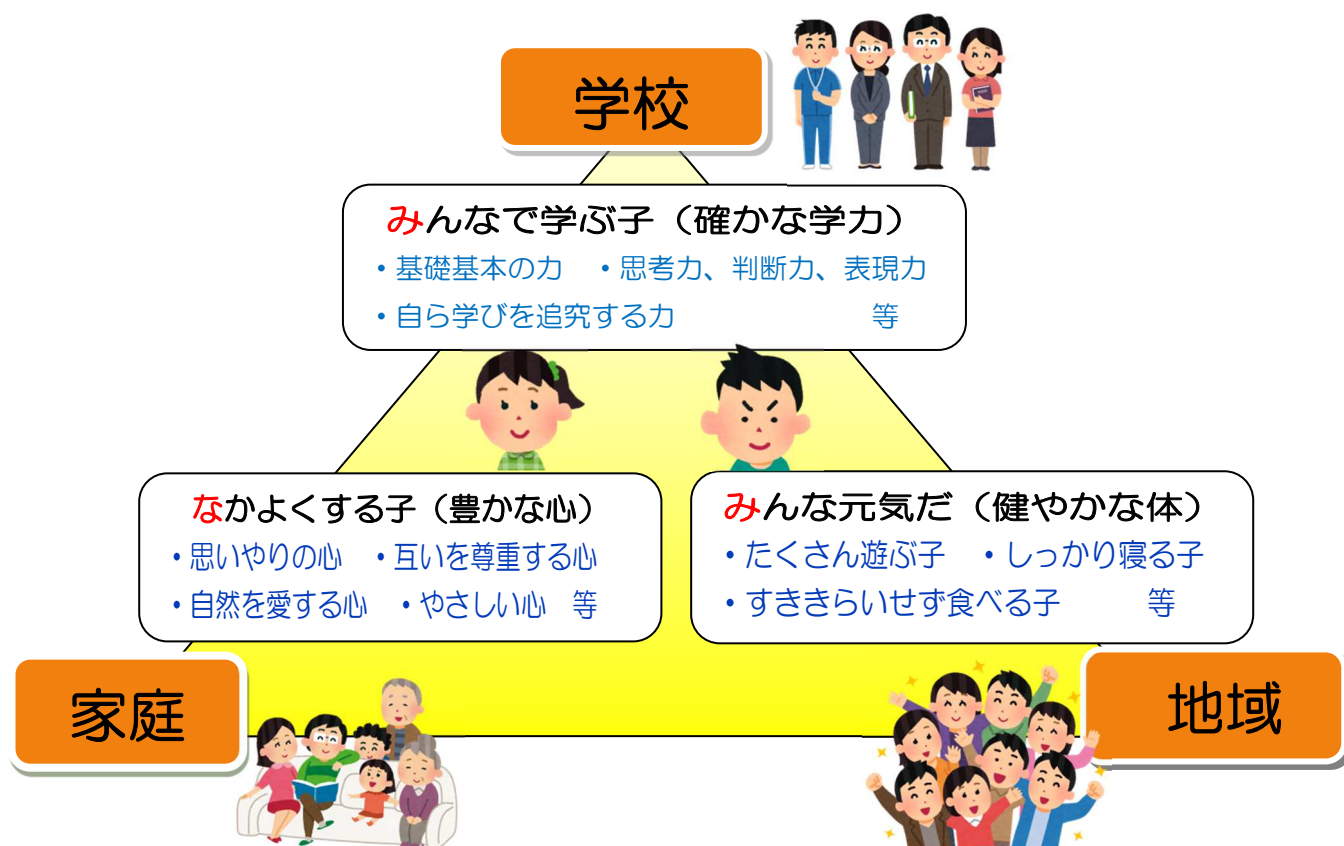


令和6年度 尼崎市立園田南小学校 学校評価報告書

教育目標

「自ら学び共に生きる心豊かな子どもを育成する」



『学校評価の目的』

- ① 各校が学校運営について目標を設定し、その取り組みを評価することによって、学校として改善を図る。
- ② 学校評価を家庭や地域と共有することで、保護者や地域住民等からの理解と参画を得て、学校、家庭、地域が一体となって学校づくりを進める。
- ③ 学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善を図ることで、教育水準の向上を図る。



○内容は、各部会の主な取り組みと成果や課題です。



みんなで学ぶ子（確かな学力）



学力向上部 ～学びの広がり～【2. 70】

今年度も、帯学習（みなみっ子タイム）では、基礎基本の定着を目指し、計算問題や漢字学習などを全学年で行いました。放課後学習も2～6年生は5月から、1年生は9月から開始しました。また、興味関心のある内容を主体的に追求して学ぶ「自主学習」にも継続的に取り組みました。年度当初に「家庭学習のすすめ」を児童に配布し、各学年系統立てて自主学習が進められるようにしています。また、より学びの質を高めるために、「自主学ウィーク」を学期に1回設け、自主学大会、自主学ノート交流会をしました。自主学大会は、自主学の中でアイデアが良いもの、課題がしっかりまとめられているものを『わくわく賞』、基礎基本を丁寧に学習しているものを『ぱっちり賞』に選出し、表彰するものです。3学期は、自主学大会に出品されたノートから校長賞、教頭賞も選出し、子どもたちの意欲に繋げました。また、自主学交流会では、学年内で交流するだけでなく、ロイロノートで資料として家へ持ち帰り、自主学習の参考としました。「自主学大会」「みなみっこ自主学ノート交流会」のノート資料を活用することで、課題の見つけ方や追求の仕方、ノートのまとめ方への理解を深めることをねらいとしています。

子どもたちの学力向上には、ご家庭や地域の協力が必要です。各家庭に配布している「学びの手引き」には、具体的な学び方やモデルが示されています。今後もより一層、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに働きかけ、基礎基本の定着はもちろんのこと、何事も主体的に追求し学びを深められる力を育てていきたいと考えています。

言語力向上部 ～本との出会い～【3. 01】

今年度は、ボランティアグループペガサスによる毎月のおはなし会の実施や、図書の時間の司書教諭による読み聞かせ活動などを通して、児童が本に出会う機会を多くつくることができました。また、図書ボランティア「ぶっくママ」さんには新しく入った本の準備や破れた本の修繕、しおり作り等、図書室の環境を整えていただきました。児童は、朝読書や読書記録に継続して取り組んでおり、読書の習慣が身についてきています。毎朝1時間目が始まる前に学校全体で朝読書に取り組んでおり、どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートすることができています。

「みんなが新しい本に出会える図書室にしよう」と目標を立てた図書委員会では、日々の当番活動に加え、読書週間の実施に向けて、児童が主体的に活動しました。特に、読書週間では、図書クエストと称した読書すごろくや読み聞かせ動画のテレビ放送を行うことで、児童がいろいろな分野の本に興味をもち手に取るきっかけをつくることができました。

来年度も教職員間で連携を図り、国語科での並行読書等、児童が読書の幅を広げられる機会を多くつくってまいります。

研究部 ～協働的な学びの姿～【2. 78】

今年度は、「自ら考え、深い学びのために他者と関わろうとする子どもの育成」をテーマに、教員が昨年度末に考えた「Create the school」における目指したい子どもたちの姿を、授業中を含む学校生活のあらゆる場面で達成できるように、研究に取り組みました。

具体的な目指したい子どもたちの姿は、①本質に迫る自分の考えを持っている姿②皆と話をし、相手の話を興味をもって聞く姿③他者の考えを汲み取り、理解しようとする姿④新たな疑問や考えを生み出している姿⑤自分の考えを再構築しゴールに向かう姿です。これらの姿を目指すために、今年度からは教科をしぼらず、各学年で自由に研究教科を選びました。また、その姿を達成するために、教師側は魅力的な学習課題（子どもたちの『やる気』を引き出すもの）と協働的な学び（自分たちの力でゴールに向かえるもの）を取り入れた授業づくりを目指してきました。また、個別最適な課題や場の工夫や、一人一台与えられているタブレット等のICT機器をツールとして使う学び方など、学び方の工夫も行いました。

今後も、系統性を意識した単元づくりと、その実績の積み上げを行い、子どもたちが教室で多くの仲間と関わり学びを深めることの良さが実感できるように、授業内容や方法を精査しながら実践に取り組んで参りたいと思います。

なかよくする子（豊かな心）



生徒指導部 ～みなみっ子3つのルール～【2. 70】

今年度も「みなみっこのきまり」として「あいさつをしよう」・「名札をつけよう」・「くつ、スリッパをそろえよう」という3つを守ることで、子どもたちが落ち着いて学校生活を送ることができるのではないかと考え、様々な取り組みを行いました。名札を付けることや靴・スリッパをそろえることについては一人ひとりが気を付けながら取り組んでいく姿が多くみられましたが、まだまだ全員揃うまでには至っていません。時代の流れとともに子どもたちを取り巻く環境も変化しています。そんな時代の変化に対応し、自ら考えて行動できるよう、今後も職員が一丸となり指導していきます。

特別活動部 ～みなみっ子ファミリー～

特別活動では「互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、さまざまな資質や能力を育成する」ことを目指しています。今年度もより幅広く様々な学年との関わりがもてるように、1・4・6年生と2・3・5年生でグループを作って活動する「ファミリー活動」に取り組みました。週に1回ファミリー清掃を取り入れることで、日常的に異学年と関わる機会をもちました。ファミリー遊びも各学期に1回ずつ実施し、高学年が中心に企画・運営を行ってファミリーで楽しく遊ぶことができました。

また、そのほかにも1学期には1年生を迎える会や体育大会での応援合戦、2学期には児童会役員主催のイベント、3学期には体育部と連携したなわとびあそびや6年生を送る会を実施しました。それぞれの行事において、他学年への思いを形にしたり、異学年との交流をメインにした活動を行ったりしてきました。

今年度の実践を踏まえ、今後も他者との関わりの中で子どもたちがより豊かな経験を積むことのできる、またそれぞれの学年に応じた力を発揮できるような特別活動を行っていきたいと考えています。

道徳部 ～心の成長と情報モラル～

昨年度の実践を高めることを目標にして、今年度も道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養い、よりよく生きるための指導を道徳の授業を中心に行ってきました。年間を通して、ワークシートや振り返りをファイリングし、学んだことや考えたことを児童が振り返ることができるようにしました。

まず、情報モラルの学習では、一人一台タブレット端末を使用するにあたり、情報機器を使う際の約束について指導しました。個人情報を守ることやインターネットを利用する際の注意点などについて学習するなどし、各学年で情報モラルの学習を通して規範意識を持つことができました。

次に、人権教育と連携し、人権週間には日ごろの感謝の気持ちを伝えるために、全校で「ありがとうの葉」を実施しました。その他にも、人権書道や「いいところみつけ」「ぽかぽか言葉とちくちく言葉」など各学年で人権について考えたり、理解したりする時間を持つこともできました。

一方で、学習したことが授業だけで終わりになってしまい、日常生活の中で生かすことができていないという課題もありました。他教科との連携を図り、継続的に指導していくことが必要であると考えます。

来年度も、情報モラルに加え、人権教育や特別活動など様々な教科とも相互に連携しながら更なる道徳の実践力を養えるような指導を行っていきます。

みんな元気だ（健やかな体）



保健部 ～守ろう！自分の体～

自分のからだを守り、基本的生活習慣を身につけることを目標に、クラスや学年など集団への保健に関する指導や、個々の子どもたちへの指導、児童保健委員会の活動を行ってきました。集団への指導としては、各学年の保健の授業に加えて、助産師を外部講師として行った生命の誕生に関する授業、睡眠やプライベートゾーンに関する授業、身体測定前の養護教諭による保健指導などを行いました。また、6年生児童と希望される保護者を対象として開催した学校保健委員会では、本校スクールカウンセラーによるストレスフリーのコミュニケーションについての講話を行い、誰も不快な思いをせずに自分の思いを伝えるための具体的な方法を学びました。個々の児童に対しては、学校生活の中で起こる健康課題に関して、体調不良の児童と一緒に生活の振り返りを行ったり、けがの際の応急手当の方法を伝えたりと、子どもたち自身が自分の体に興味を持ち、健康の保持増進に向けた行動を考えられるよう、指導をしてきました。また、昨年度に引き続き、児童保健委員会では、ハンカチ、ティッシュ、爪切りのチェックを行う衛生検査を実施し、毎月クラスごとに数字にした結果を掲示しました。過去の月との変化を見たり、ほかのクラスと比較したりし、より良い結果を残そうと、児童同士で声を掛け合っている様子も見られ、衛生面から健康の保持増進を意識づけられるきっかけとなりました。

体育部 ～子供と運動を紡ぐ～

体育では「子どもたちが運動を楽しみ生涯にわたって運動に親しむことができる素地を育てるとともに、健康的な体づくりと体力の向上を目指す」という目標のもと、授業改善や体育的行事に取り組んできました。

今年度も、目標が達成できるよう日々の授業の改善を行ってきました。授業中は、それぞれの運動のもつ楽しさに触れられるよう授業を展開することで、休み時間にも運動やスポーツに親しむ児童も多く見られるようになりました。体育大会は、「日常では経験できない大集団で運動やスポーツに親しむ」ということを目標に実施しました。昨年度の反省を踏まえ、子どもたちにとって最大限に価値のある行事となるよう実施方法について何度も検討を重ねました。昨年度の反省を踏まえ、今年度は保護者の方々にも「体育大会のつくり手」となってもらうべく、観覧学年を制限した形で保護者を入れた体育大会を実施しました。事前に手紙や動画で体育大会の趣旨をご理解いただいたため、当日はトラブルもなく、スムーズな運営を行うことができました。一方で、運動場の広さと児童数の多さから、全校児童および全保護者で創る体育大会という点では不十分でもありました。来年度以降より良い形を検討していきます。3学期には、みなみっこなわとびあそびをファミリー活動の一環として実施しました。少ない回数ではありましたが、学年の垣根を越えて一緒になわとびあそびをすることで、様々な人と運動を楽しむ力を身につけることができました。また、授業の中で触れたなわとびあそびから、寒い時期でもなわとびあそびに親しむ姿が見られるようになりました。今後も子どもたちがさまざまな遊びに触れる機会を増やし、運動を楽しみながら体力を向上させることができるようにしていきたいです。

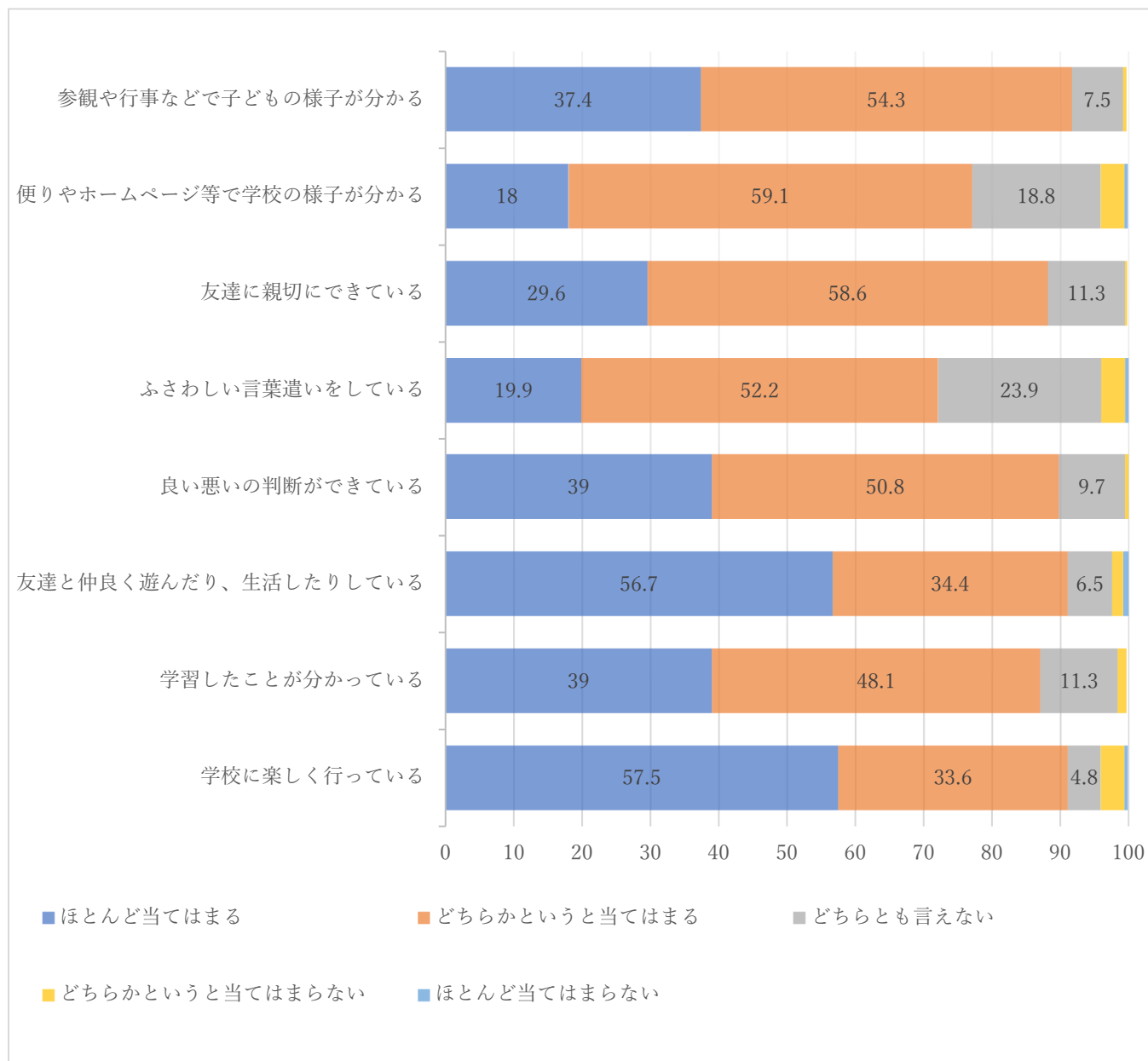
食育部 ～食生活と健康な体づくり～

望ましい食生活を知り、実践しようと励む児童の育成を目指して、引き続き健康的な食生活の意識向上に取り組んできました。各学級での食育指導、給食便りの発行などを定期的に行っています。給食週間は、調理師さんへの感謝の手紙贈呈、給食委員会で企画したじゃんけんゲームでは、「エネルギーのもとになる食品」「体をつくるもとになる食品」「体の調子を整える食品」3つの食品のグループを探してスタンプをもらったり、ピンゴゲームなどを行ったり、食べものや食生活に興味をもつ機会になりました。

全国食育月間に、ゲームを通して、日本の伝統的な食育文化である「箸」の持ち方に興味を持たせるために M-1 グランプリ（豆つかみ大会）を実施しました。学校と家庭との連携を深めるために給食試食会を1年生の保護者を対象に開催しました。給食エプロンの補修活動を保護者・PTA 役員の皆様にご協力頂きました。

日々の給食においては、給食委員会の児童が献立に使われる食材の掲示を行ったり、外国人講師が給食時間にメニューを英語で紹介し、クイズを行ったりすることで、子どもたちは給食に関心を持つとともに、英語の言い方にも親しむことができました。各学級で配膳時や食事の衛生管理に細心の注意を払いながら、個々の児童に合わせた配食量の工夫をしています。今後も子どもたちが栄養のバランスや規則正しい生活の大切さについて知り、実践しようとする中で、健康な体づくりに繋がるよう継続的な食育指導に取り組んでいきたいと思います。

《保護者アンケートの主な結果》



【アンケートに寄せられた主なご意見】

- 過去の手紙を見返すための閲覧フォルダを作してほしい
- 参観や懇談、オープンスクールが多くすべてに参加するのが難しい
- タブレット端末を一人一人が持つことにより、良い面もあれば悪い面もある
- 子どもたちの言葉遣いが気になる

など

貴重なご意見ありがとうございました。今後の学校運営に生かし、より良い園田南小学校を創ってまいります。

～ 総 評 ～

みんなで学ぶ子【確かな学力の向上】

令和6年度も、朝読書、そして昼の帯学習の時間に、算数・漢字プリントなどで基礎の定着を図り、毎週月曜日の放課後学習を実施しました。この毎日の積み重ねが、例年尼崎市で実施している「あまっ子ステップアップ調査」に結果として表れていました。小学校1年生から6年生までの国語・算数におきまして、その平均正答率は、今年度も全国平均の数値、尼崎市内の小学校の数値をすべて上回るものでした。学年、教科によっては、その差を15ポイント以上越えるものもありました。毎日の学習に向けての取り組みが結果として明確に数値に表れているものでした。

また、意識に関する調査結果では、学力向上に関係の深い20問の中の挙げられているいくつかの項目として、次のようなものがありました。

「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」「学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい。」など、これらの質問内容に対しての、「そのとおりである」という肯定群回答割合においても、全国の数値、尼崎市の数値を上回っておりました。普段の、児童の学習に対する姿勢が、教科の数値に見事に表れているようです。

昨年度も記しましたが、読書について、本校児童はよく本を読みます。週に一コマですが、図書室で本を読んで過ごす時間を設けており、本にふれる時間が必然的に多くなっています。読書力向上担当の望月先生も、児童が様々な本に興味関心をもってもらえるように、児童に読み聞かせをしたり、今年度からは高学年を対象に、ブックトークもスタートしました。図書室で本を手にとれる最適な環境づくりをしています。

なかよくする子【豊かな心】

数年前のコロナ禍がきっかけで、世間的にも人と人とのつながりが弱くなりがちであった状況の中で、学校としてできることとして、子どもたちを人との関わりの中で育てられるように、できる限り機会を多く持ち、取り組みそのものに厚みを持たせるなど、様々な工夫をしてみました。例えば、学年をこえて一緒に活動する機会の一つとしてファミリー活動に力を入れ、意図的に異学年の交流に重点を置きました。そして高学年の児童と低・中学年の児童とがファミリー清掃をとおして一緒に活動できるように設定しました。低・中学年の児童が高学年の児童から学ぶことも多く、高学年の児童にとっても、目の前の相手に、自分の考えをことばを選びながら、きちんと伝えることのできるきっかけづくりとなっていました。

みんな元気だ【健やかな体】

今年度も体育の授業を中心に、楽しみながら健康的な体づくりと体力向上を目指して、工夫したカリキュラムを実施しました。体育大会の企画運営につきまして、大規模校であるがゆえの様々な課題を克服するべく、試行錯誤しながらもなんとか、現在の形にできました。保護者の皆様におかれましては、多くのご協力ご支援のもと、お子様のダンスも走競技もともにご観覧いただくことができ、おかげさまで無事に開催を終えられましたことに感謝申し上げます。体育大会をとおして児童一人ひとりの充実感、達成感につなげることができたと感じています。

今年度も、本校の学校運営につきまして、ご支援をいただきまして本当にありがとうございました。来年度も引き続き、どうぞ宜しくお願いいたします。